

タイトル: 基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探求」平成 23 年度第 1 回公開セミナー: アフリカ入門

日時: 平成 23 年 6 月 21 日(火曜日) 午後 6 時より午後 7 時 30 分

会場: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階セミナー室(301)

報告者: 井上真悠子氏(日本アフリカ学会)

報告タイトル: 現代東アフリカ社会における観光業 ～売り物としての『アフリカ』～

報告要旨

「アフリカ」と聞いたとき、野生動物や農村生活、貧困、紛争といったキーワードはすぐに浮かぶが、「都市」や「観光」といったイメージは想起しにくいかもしれない。しかしアフリカにも都市は多数存在しており、観光客が多く訪れるおだやかな観光地もある。

東アフリカ・タンザニア随一の観光地であるザンジバルは、1980 年代から観光化がはじまり、現在では年間十数万人を越える外国人観光客が訪れる国際リゾート地となっている。そして外国人観光客をターゲットにしたみやげ物商人たちも、ケニアやタンザニアの各地から国境や地域を越えて移動してきている。その中には東アフリカで有名な「マサイ」の若者たちや、タンザニアの絵として有名な「ティンガティンガ」などの絵描きたちも多い。

本講演では、ザンジバルをはじめとしたアフリカの観光地で働いているみやげ物生産者や小売業者を対象とした現地調査の具体的な映像をまじえて、彼らのみやげ物の制作過程や日常生活について解説した。そして現地のみやげ物業従事者たち自身が、いかにして「アフリカ」というイメージを主体的かつ戦略的に活用し、外国人観光客を対象とした商売をおこなっているのかを明らかにしたうえで、今後のアフリカのみやげ物業がより広域化する可能性について示唆した。

*当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。Copyrighted materials of the authors.